

四国森林管理局管内の 木材需給、木材価格等について

平成25年9月2日(月)

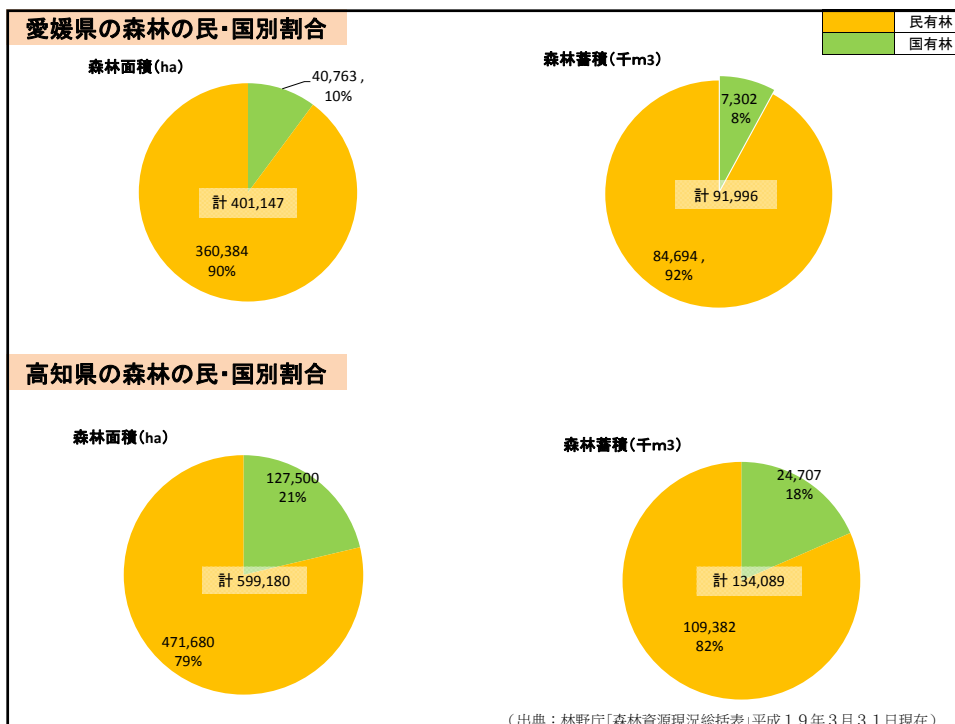
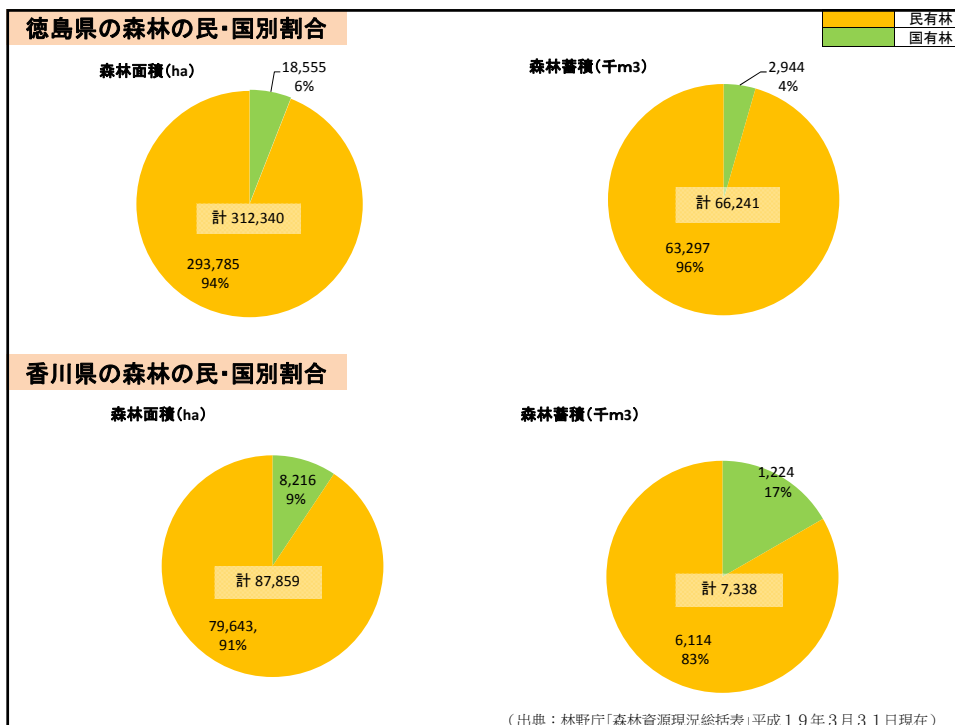
四国森林管理局

◆四国森林管理局管内の各県の森林面積及び森林蓄積量

四国の各県の森林面積、森林蓄積に占める国有林の状況は以下のとおり
国有林は高知県が森林面積、森林蓄積とも最も多い状況。

県	森林面積 (ha)			森林蓄積 (千m ³)		
	国有林	民有林	計	国有林	民有林	計
徳島県	18,555	293,785	312,340	2,944	63,297	66,241
香川県	8,216	79,643	87,859	1,224	6,114	7,338
愛媛県	40,763	360,384	401,147	7,302	84,694	91,996
高知県	127,500	471,680	599,180	24,707	109,382	134,089
四国計	195,034	1,205,492	1,400,526	36,177	263,487	299,664

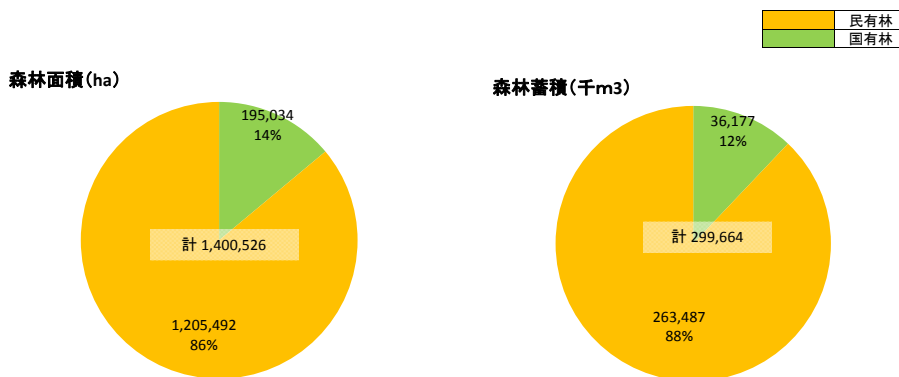
(出典：林野庁「森林資源現況総括表」平成19年3月31日現在)



◆四国森林管理局管内の森林面積及び森林蓄積量

四国局管内の森林の民・国別割合

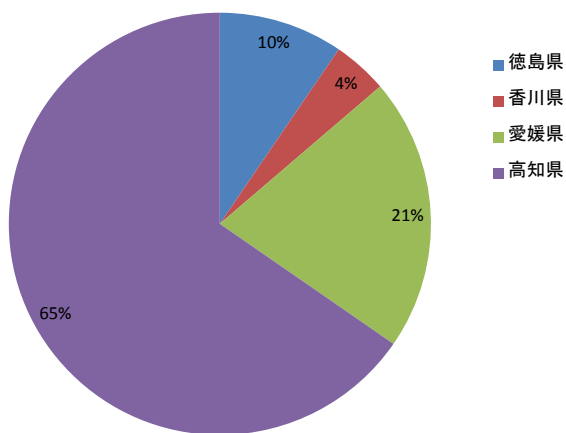
四国局管内全体の、国有林の比率は、森林面積で14%、森林蓄積で12%の状況。



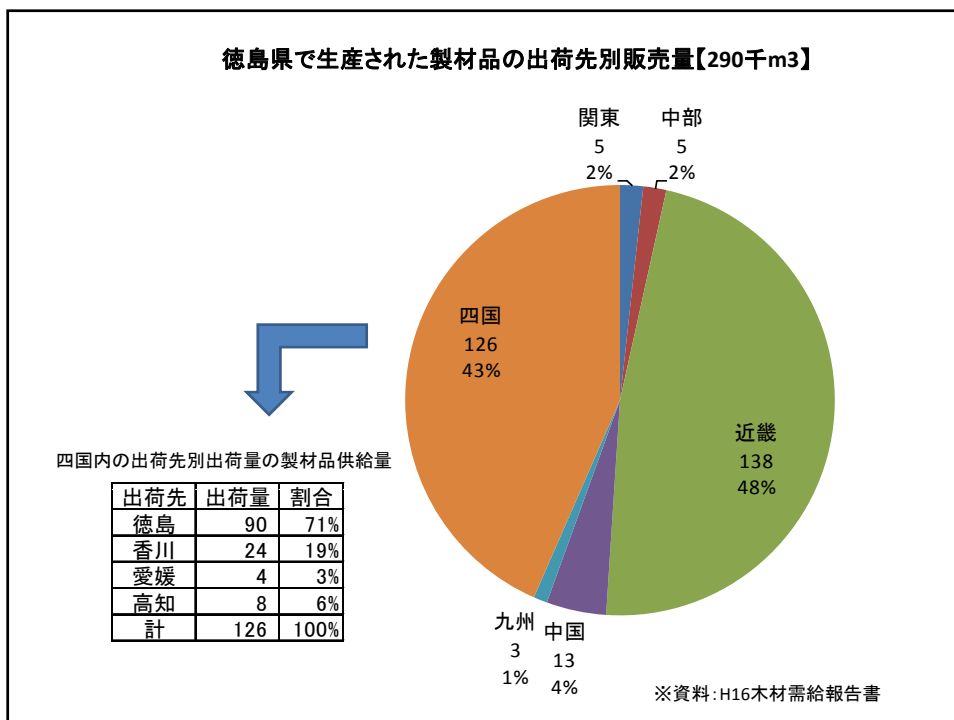
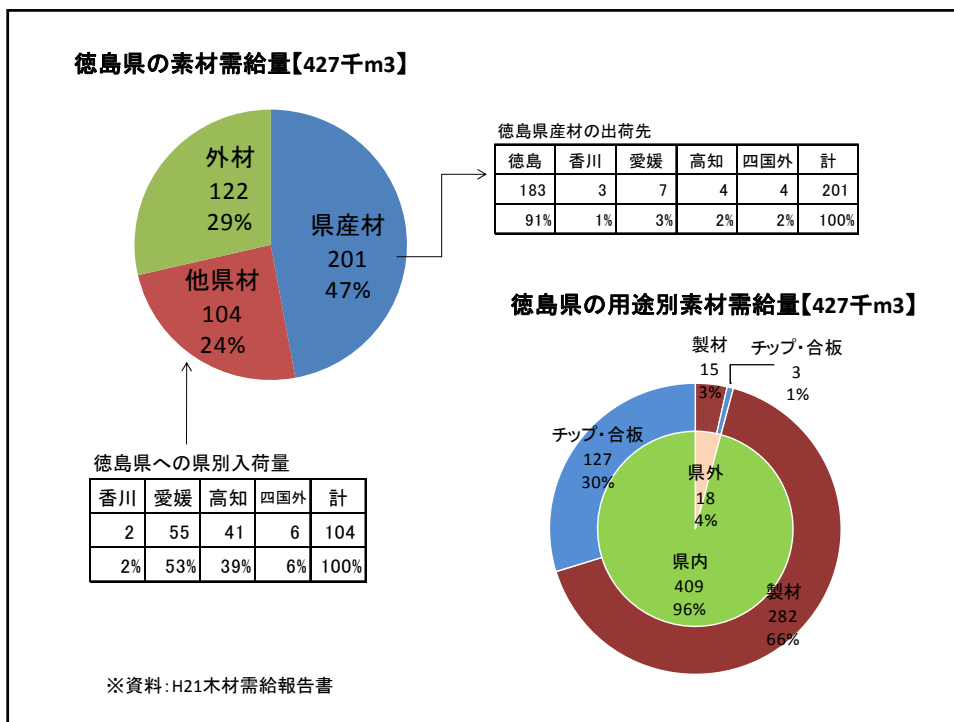
(出典：林野庁「森林資源現況総括表」平成19年3月31日現在)

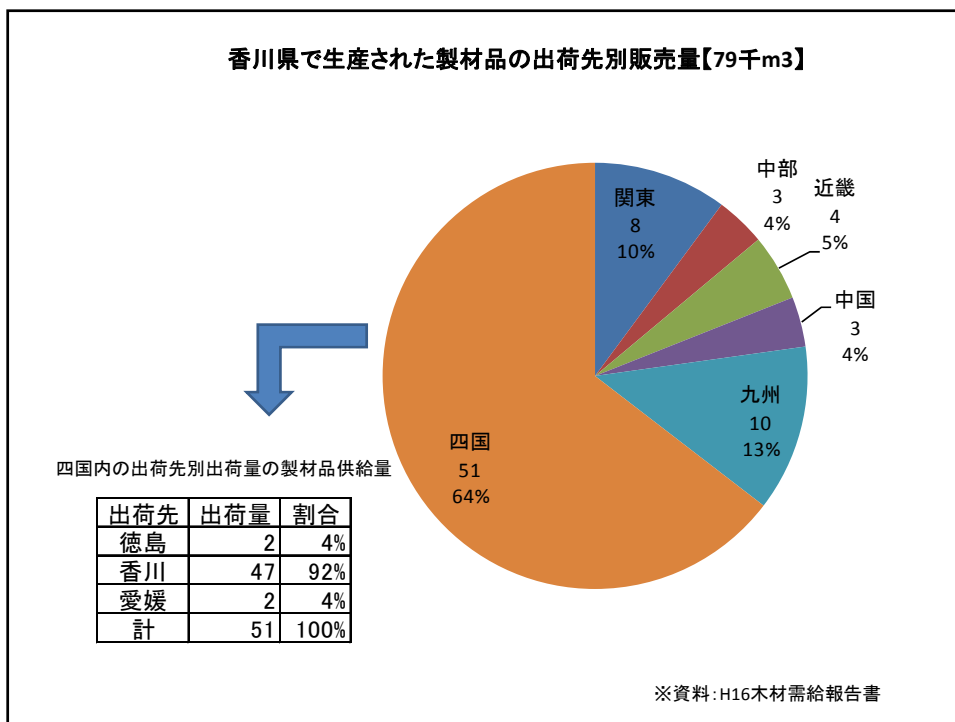
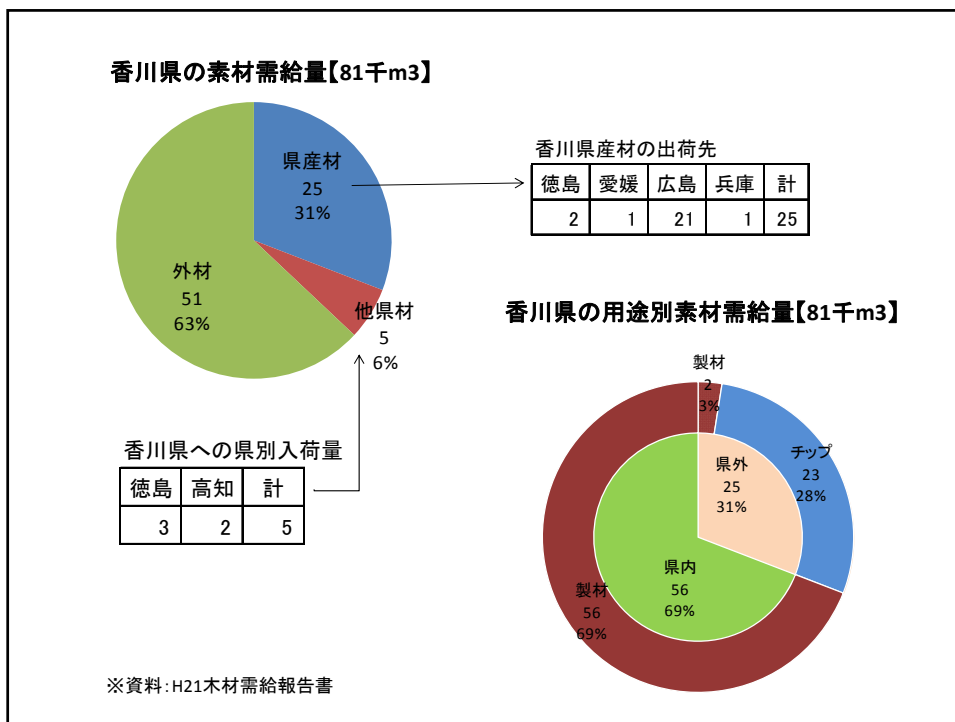
◆四国局管内の国有林が所在する各県毎の面積割合は、高知県が最も多く、65%が高知県に所在。

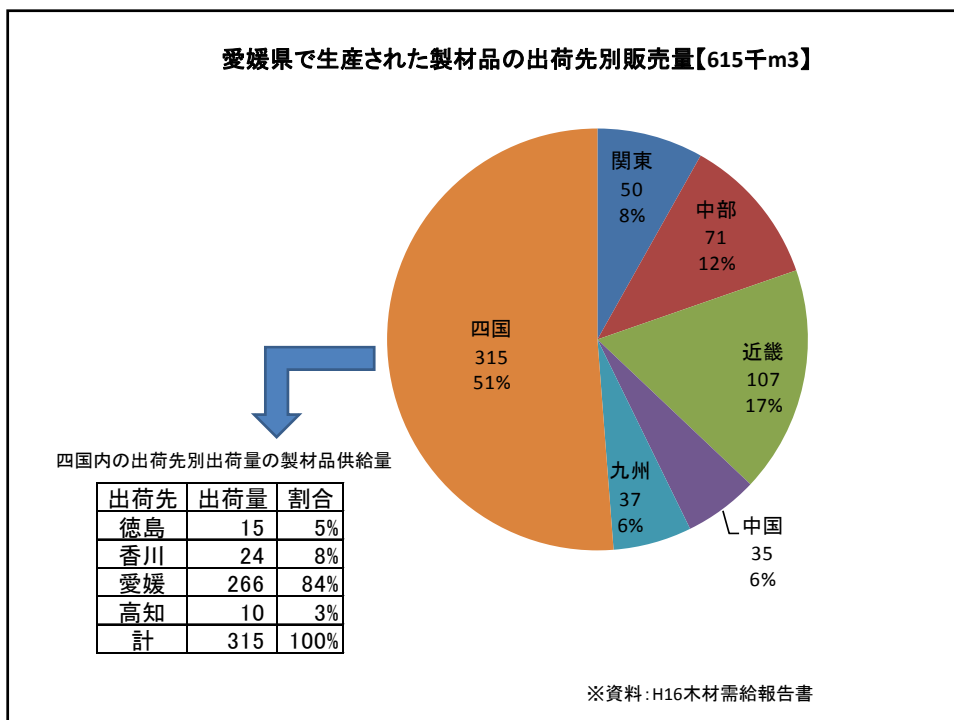
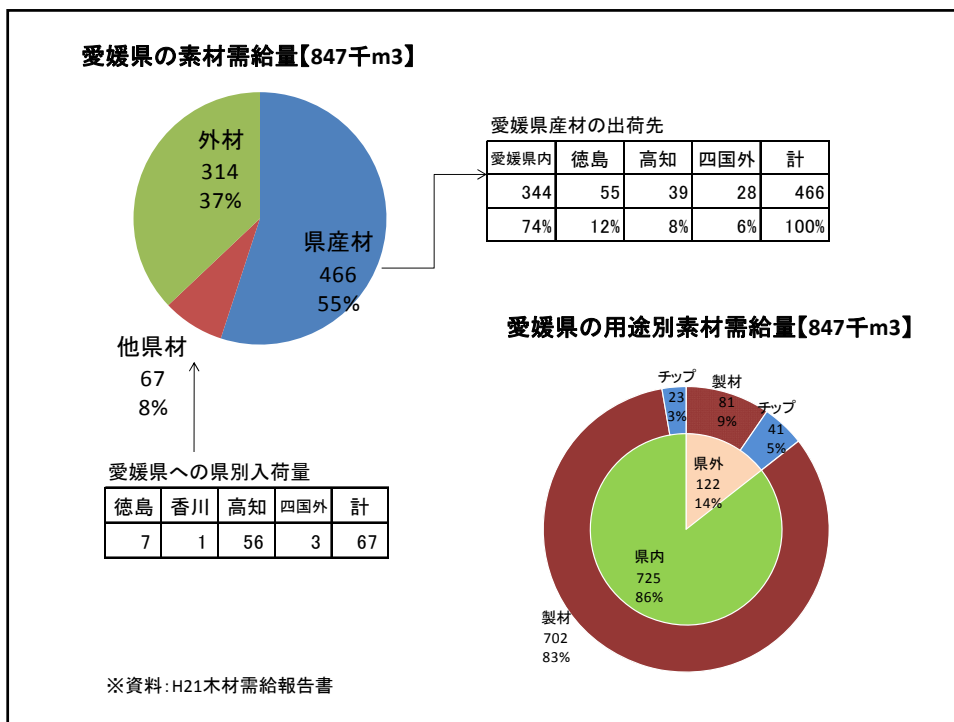
四国局管内の国有林の県別面積割合

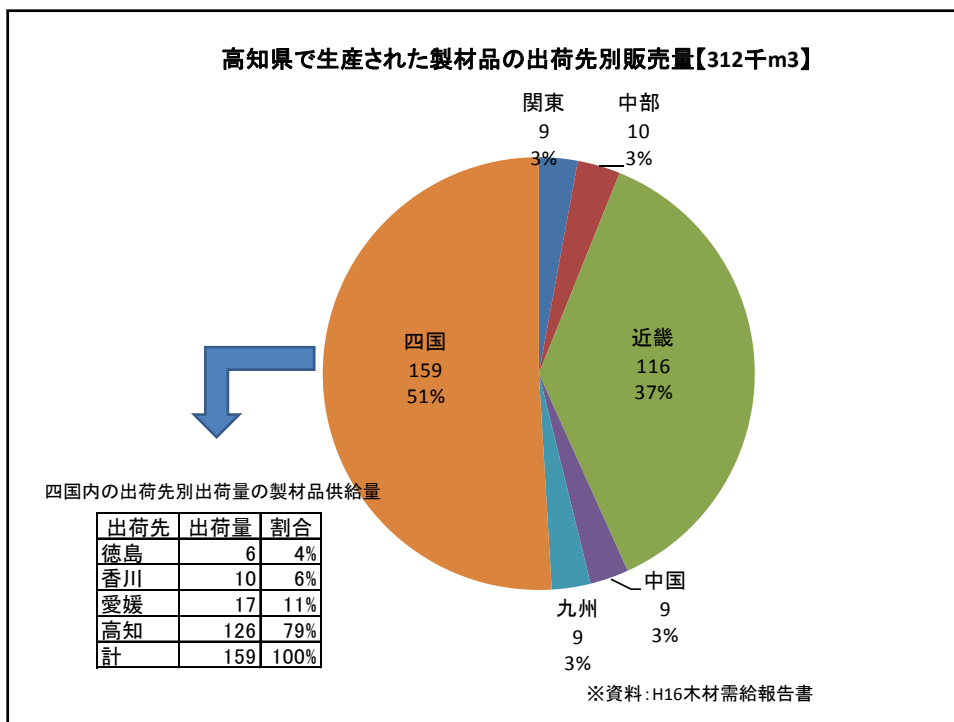
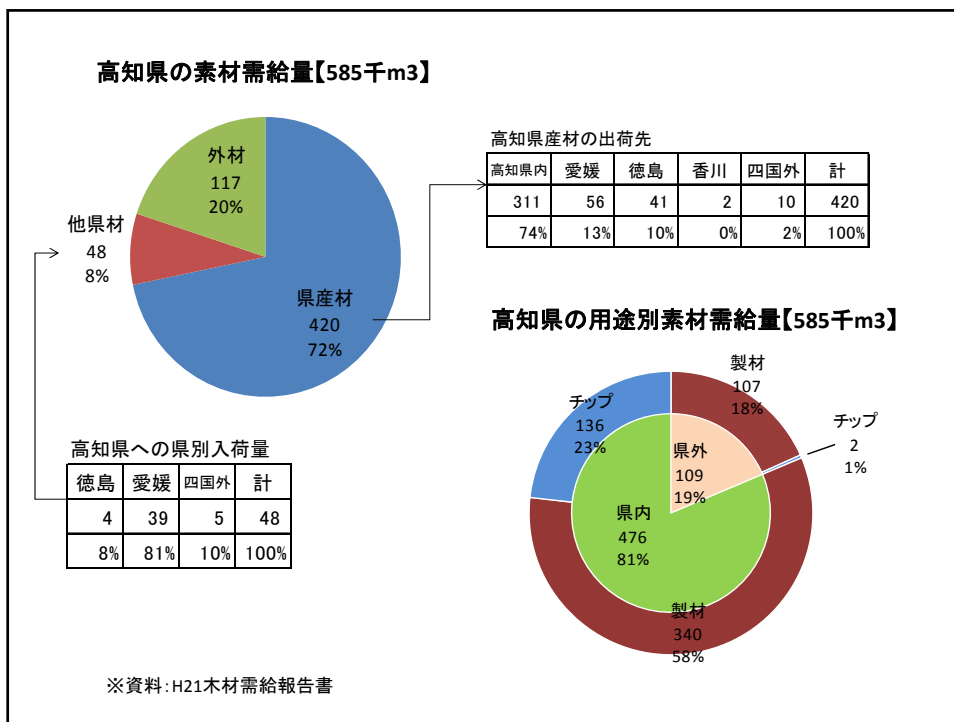


(出典：林野庁「森林資源現況総括表」平成19年3月31日現在)



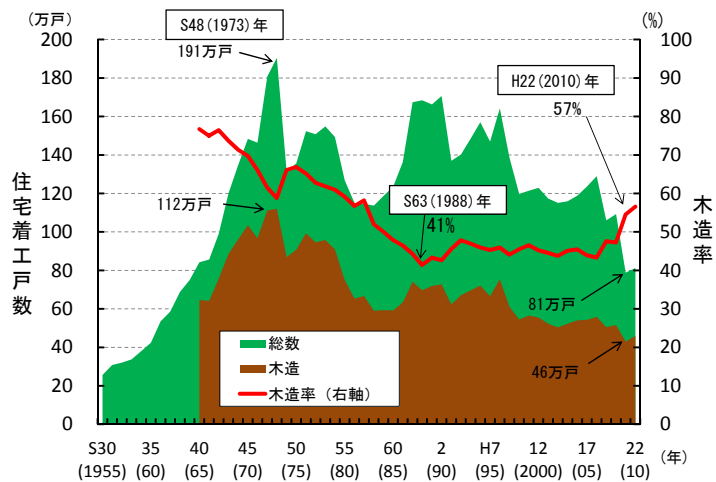






○ 新設住宅着工戸数と木造率の推移

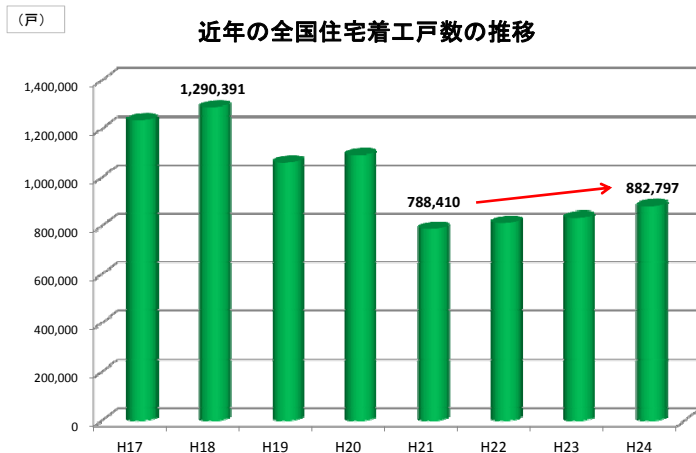
S48年に191万戸とピークであった、住宅着工戸数は、長期的には減少傾向にあり、H21年には79万戸とS40年以降過去最低となった。
 しかし、H21以降は緩やかな持ち直しの傾向にあり、H24年は88万戸となっている。



(出典：林野庁「平成23年度森林・林業白書」)

○ 近年の新設住宅着工戸数の推移

近年の住宅着工戸数は、H18年の129万戸以降減少傾向にあったが、H21年の79万戸以降は緩やかに増加傾向にあり、H24年には88万戸の状況。

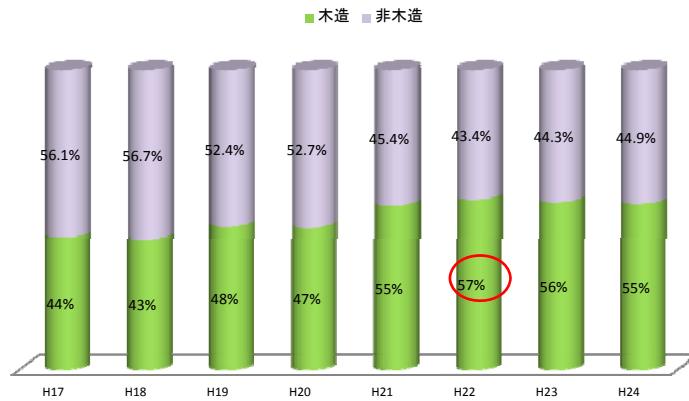


(出典：「木材情報(7月号)」)

○ 近年の新設住宅の木造率の推移

近年の新設住宅着工戸数は、H21年以降緩やかな増加傾向にあり、木造住宅の占める割合も、H17年の44%から、H22年には57%まで増加し、H24年には55%と木造住宅の割合は増加傾向。

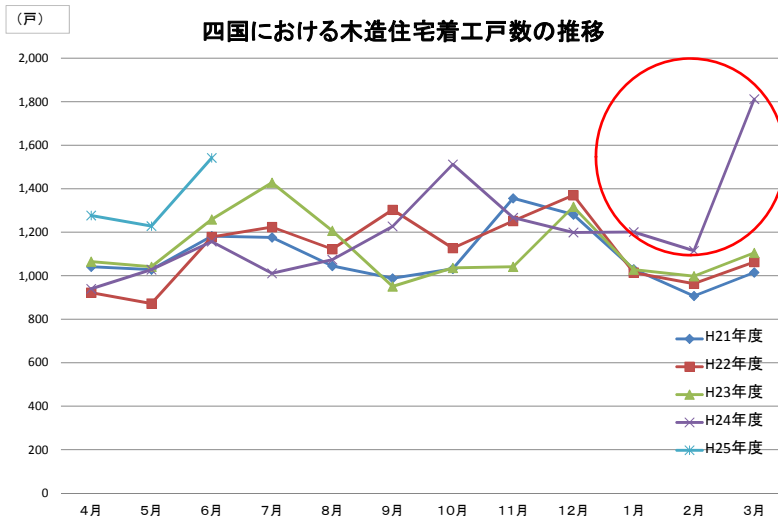
近年の全国住宅に占める木造住宅割合の推移



(出典：「木材情報(7月号)」)

○ 四国における木造住宅着工戸数の推移

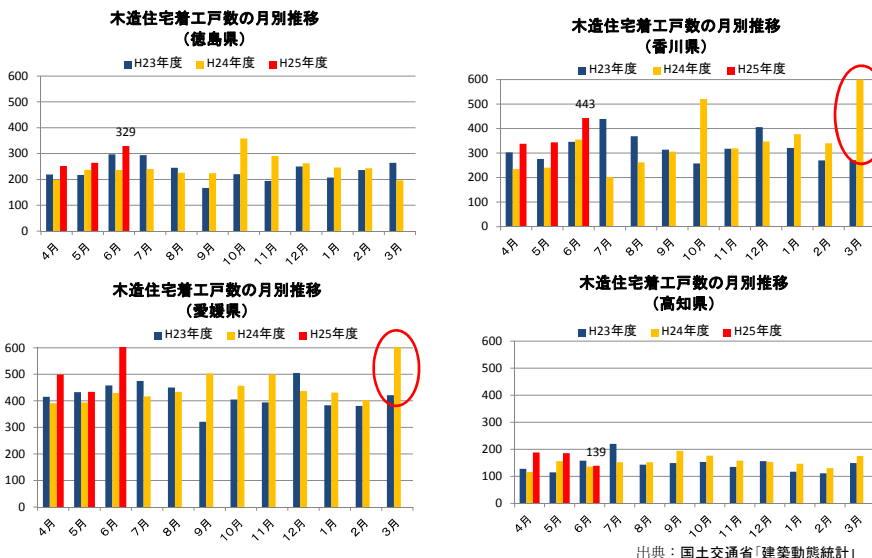
四国における木造住宅着工戸数の月別推移は、毎年12月以降減少傾向であったが、H25年1月以降の状況は、横這い、若干減少傾向の状況があり、特に3月には顕著な増加が見られ、4月以降も例年になく高い状況で推移。



出典：国土交通省「建築動態統計」

○ 四国各県の木造住宅着工戸数の推移

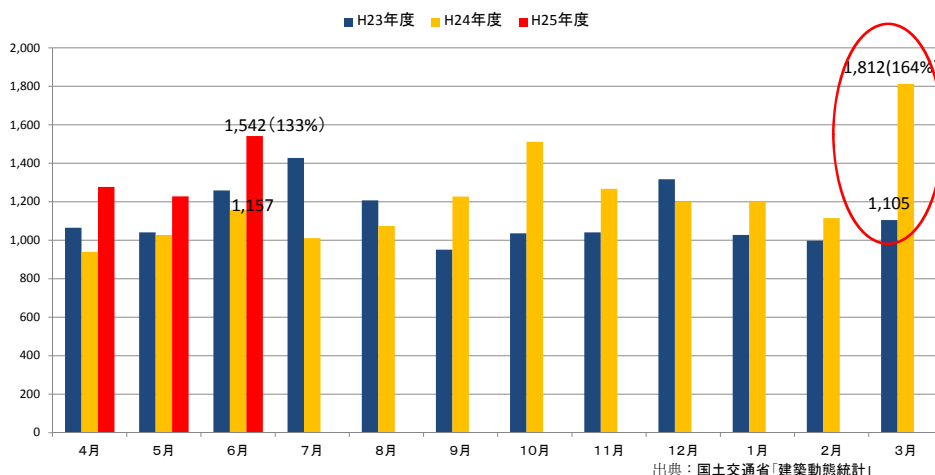
四国各県の木造住宅着工戸数については、12月以降減少傾向であったが、H25年1月以降は、前年を上回る状況であり、3月には徳島県以外では増加しており、4月以降も例年より高い状況で推移。



○ 四国全体の木造住宅着工戸数の推移

四国全体の木造住宅着工戸数の月別推移は、例年12月以降減少傾向であったが、H25年1月以降においては、横這いから2月に若干の減少にあったが、特に3月には顕著な増加が見られ、4月以降も例年になく高い状況で推移。

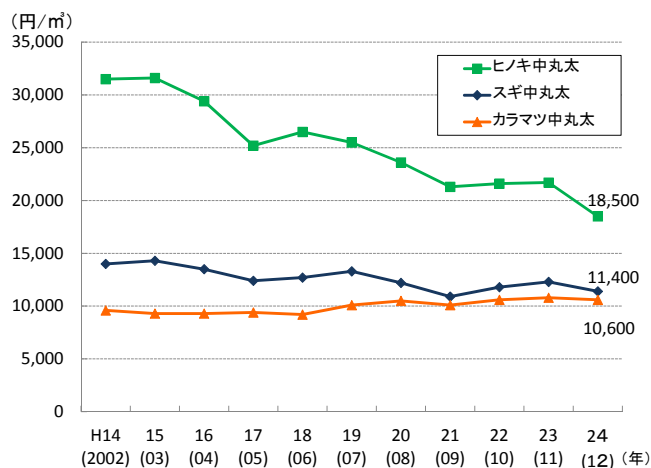
木造住宅着工戸数の月別推移(四国)



○ 国産材丸太価格の推移(全国)

国産材の丸太価格は、S55年をピークに長期的には下落傾向であったが、H21年移行横這いで推移してきた。

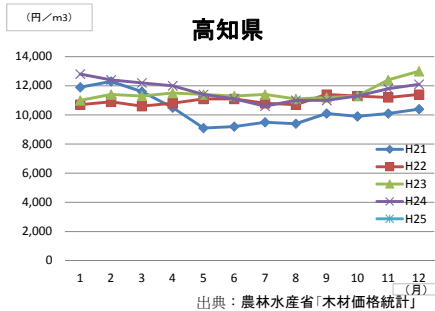
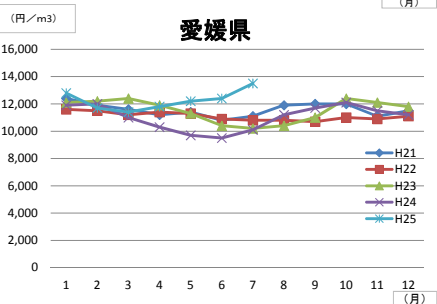
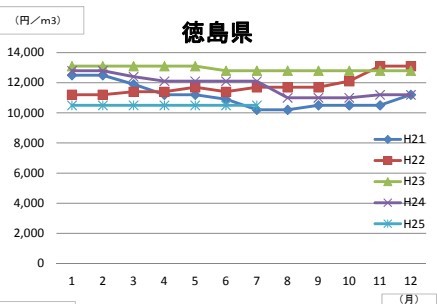
しかし、平成24年にはスギ11,400円/m³(H14比81.4%)、ヒノキ18,500円/m³(H14比58.7%)と前年を下回り、特にヒノキの価格の低下が著しい。
(平成14年:スギ14,000円/m³、ヒノキ31,500円/m³)



(出典: 林野庁「平成24年度森林・林業白書」)

○ 四国の丸太価格の推移(スギ中丸太3.65~4.00、14~22cm、込み)

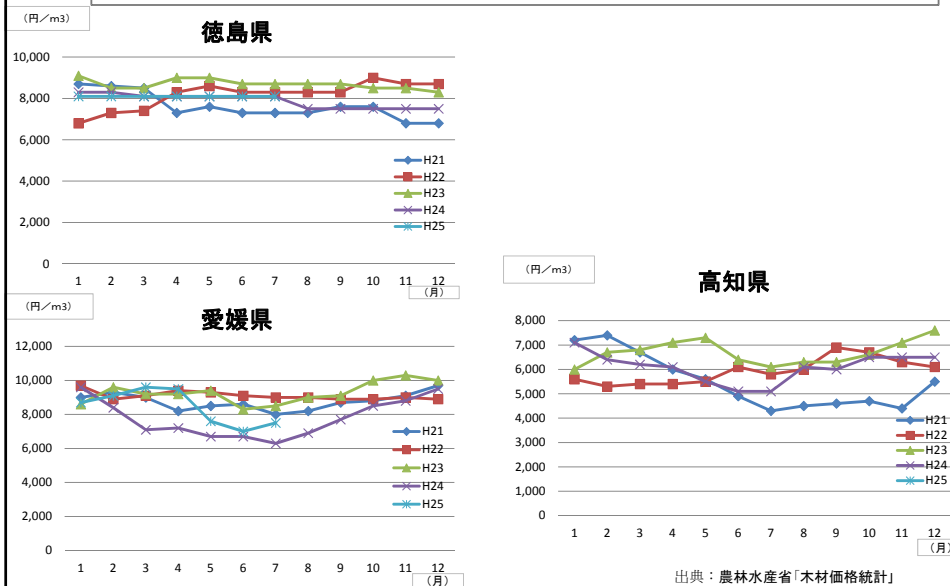
・H24年には愛媛で梅雨時期に価格が下がったが秋には回復、毎年の傾向として、夏場にかけて下落し、秋~冬に上昇する傾向。



出典: 農林水産省「木材価格統計」

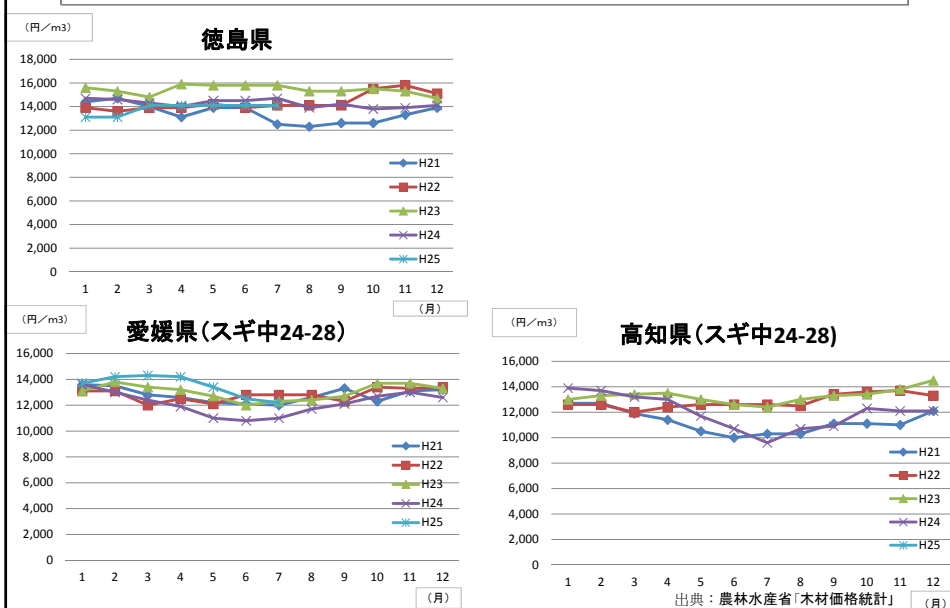
○ 四国の丸太価格の推移(スギ小丸太3.65～4.00、8～13cm、込み)

・徳島県は価格変動は小さいが、H24年には愛媛県で夏場に価格が下がり、冬場には回復。H25年は愛媛県では、夏場に価格が下がったが、昨年より早い回復の兆しが見られる。



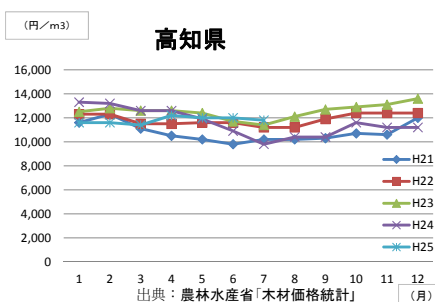
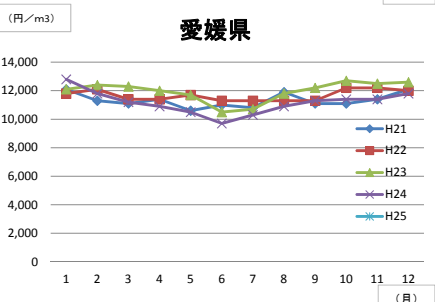
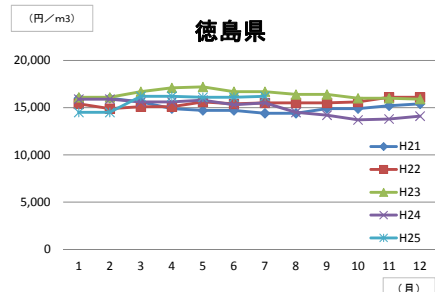
○ 四国の丸太価格の推移(スギ中丸太3.65～4.00、24～28cm、込み)

・H24年は愛媛県、高知県で大きな価格差がみられたが、H25年には大きな価格差は見られない。



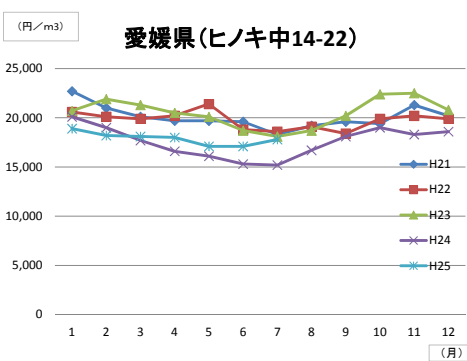
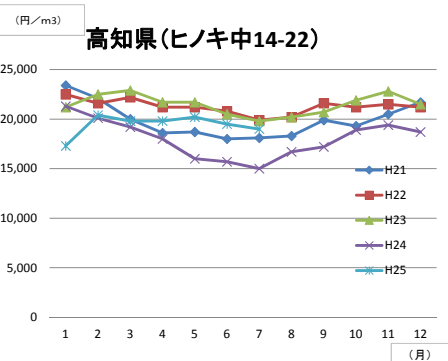
○ 四国の丸太価格の推移(スギ大丸太3.65～4.00、30～36cm、込み)

・各県とも季節変動は小さいが、毎年の傾向として、夏場にかけて下落し、秋～冬に上昇する傾向。



○ 四国の丸太価格の推移(ヒノキ中丸太3.65～4.00、14～22cm、込み)

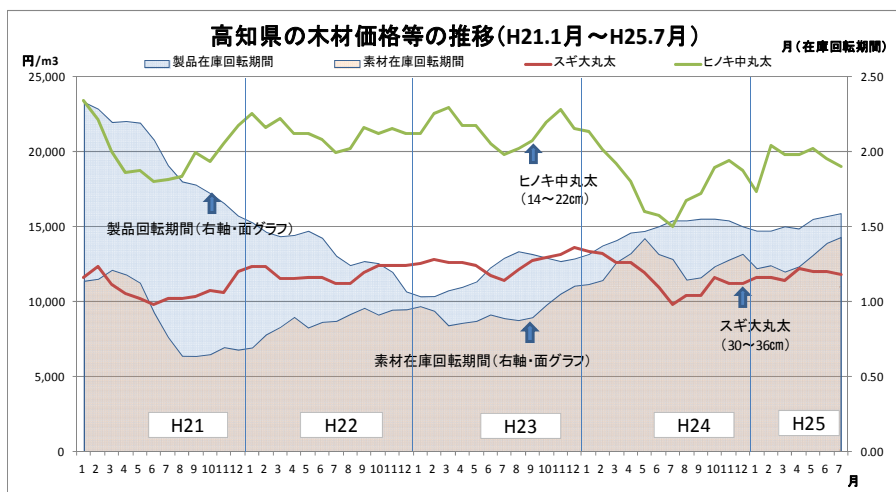
・ H24年は両県とも夏場にかけて下落したが、H25年は保合～強含みで推移。



出典：農林水産省「木材価格統計」

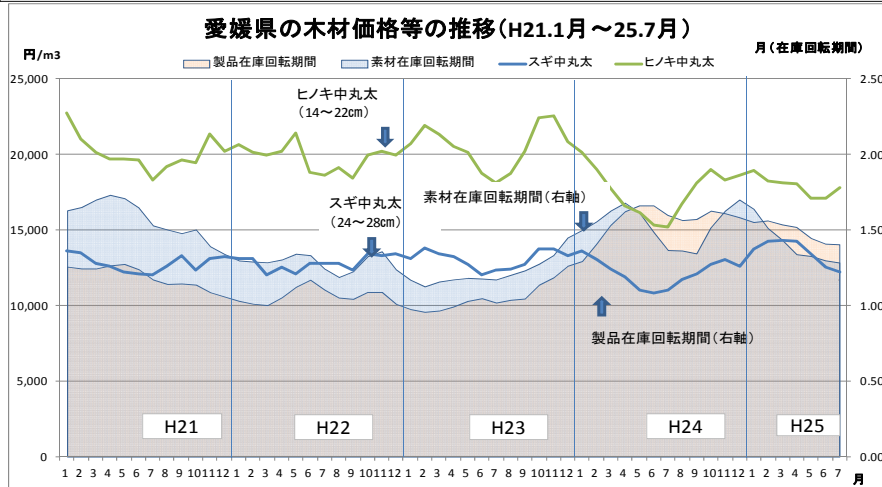
○ 高知県の丸太価格の推移

- ・ヒノキ中丸太は、2月に20,400円/m³まで回復し横這いで推移してきたが、7月は19,000円/m³。
- ・スギ大丸太は4月12,200円/m³となり、その後横這いで推移し7月に11,800円/m³。
- ・素材・製品の在庫回転期間は横這いから緩やかな増加で推移している、特に製品の在庫回転期間は高止まりで推移しており、木材価格も横這いで推移するものと予想。



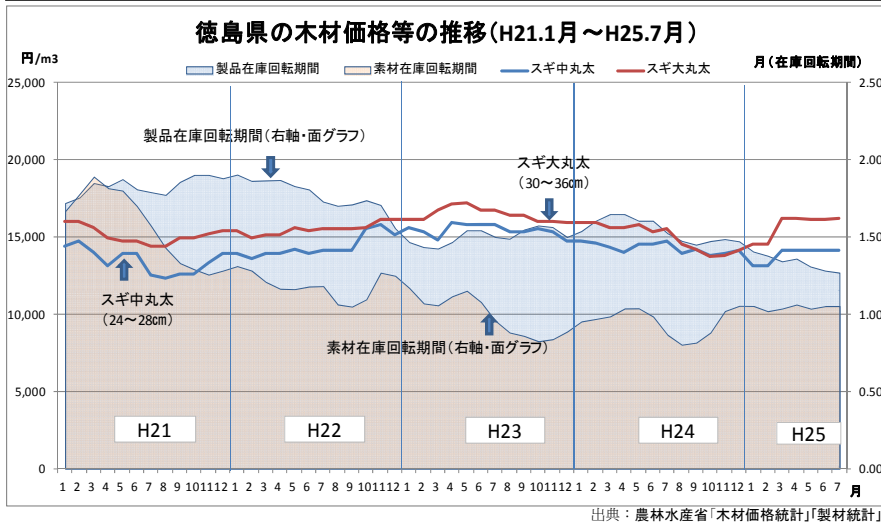
○ 愛媛県の丸太価格の推移

- ・素材の在庫回転期間は、昨年12月以降減少傾向から横這いで推移。製品の在庫回転期間は昨年10月以降、若干の減少傾向。
- ・ヒノキ中丸太は、昨年10月以降弱保合で推移してきたが、7月は17,800円/m³と強含みに転じた。
- ・スギ中丸太は3月14,300円/m³まで回復したが、その後値下がりに転じ7月は12,200円/m³。
- ・素材の在庫回転期間は減少傾向にあるものの、製品の在庫回転期間は依然として高止まりで推移しており、木材価格はヒノキ中丸太は回復基調、スギ中丸太は横這いで推移するものと予想。



○ 徳島県の丸太価格の推移

・素材・製品の在庫回転期間は、2月に若干減少したもののその後横這いで推移。
 ・スギ大丸太は3月に16,200円/m³、スギ中丸太は14,100円/m³まで回復、素材の在庫回転期間に目立つ減少傾向はうかがえない。
 全体的な傾向として、これから欠点の少ない新材中心となることから在庫補充買いが強まり、木材価格は秋に向け先高展開が続くものと予想。



○ 合板の価格の推移

・針葉樹合板の在庫回転期間は2月まで減少傾向にあり、その後横這いで推移。
 価格は、昨年10月以降保合で推移していたが、2月に強含みに転じ以降は強含み保合で推移、7月は1,170円/枚。

